

アトリエ通信

“風のアーティスト”新宮晋からのメッセージ

ATELIER EARTH Journal

vol.

0

プレ創刊号

2022
autumn
winter

第四回 風の能

兵庫三田の森「風のミュージアム」で
繰り広げられるスペース・オペラ



風のアーティスト 新宮晋が描いたポップアップ絵本
「サンダリーノ」の世界をアーティスト自らの企画・監修で
本格指導を受けた子どもたちが創作狂言の世界を繰り広げる

2022年 9月 23日 [金・祝]

演目：第四回 風の能 [前半の部] 新作子ども狂言「サンダリーノ— 水車小屋の場」 [後半の部] 薪能「敦盛」

日時：2022年9月23日 [金・祝] 17時30分開演 (開場16時)

会場：兵庫県立有馬富士公園 休養ゾーン「新宮晋 風のミュージアム」水上特設ステージ (〒669-1505 兵庫県三田市尼寺968)



主催 一般財団法人 地球アトリエ <https://susumushingu.com/>
後援 兵庫県 兵庫県教育委員会 公益財団法人 兵庫県芸術文化協会 三田市 三田市教育委員会
協賛 三田南ロータリークラブ 協力 ハニー FM

第四回「風の能」は
ARTS for the future! 2 の
補助対象事業です。





アトリエのマケット (三田)



虹色の葉 2021年
565 Broome Street (米 NY)

“アートはアタマで考える人にとっては
ややこしいものですが、
心で受けとめる人にとっては
直球のように真っすぐで
分かりやすいものです”



遠い空 2012年
メルセデス・ハウス (米 NY)



風のアーティスト 新宮 晋

Susumu Shingu

【略歴】1937年大阪府生まれ。東京藝術大学絵画科を卒業後、イタリアに留学。6年間の滞在中に風で動く作品を作り始める。帰国後の1967年、東京の日比谷公園で開催した個展「風の造形」で注目を集め、1970年開催の「大阪万博」への出品作家に選出される。以来、兵庫県三田市とパリ（フランス）に拠点を構え「関西国際空港」や「銀座メゾン・エルメス」をはじめ、アテネ、ニューヨーク・ミラノなど世界各地に新宮作品は設置されている。また来年（2023年）の夏には世界建築界の巨匠であり、長年の盟友でもあるレンゾ・ピアノ氏との奇跡のような二人展の開催が、現在大阪中之島美術館で着々と準備が進められている。これまで半世紀以上にわたり、風や水などの自然のエネルギーだけで動く作品を作り続け「風のアーティスト」として世界的に知られる新宮晋（しんぐう すすむ）。そのダイナミックなアート活動は、いつも自然と人間との幸せな共存を探り続けるメッセージを投げかけ、まさに今この時代にこそ世界に求められるアーティストである。



ニアルコス文化センター (ギリシャ)

数字や効率で
物事を測る社会では、
本当の幸福は
わからない

文明で文明を
押さえつけようとする
ような西洋文明は
限界に来ている。



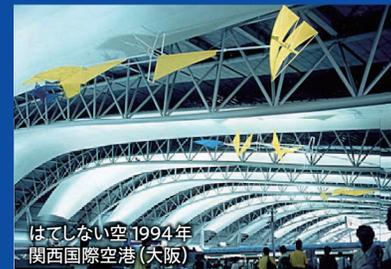
雪の翼 2018年
個人コレクション (ウラルグアイ)



風のフーガ 2012年
個人コレクション (フランス)



宇宙に捧ぐ 2001年
メゾン・エルメス (東京)



はてしない空 1994年
関西国際空港 (大阪)

愛とか、幸せとか、
楽しみとか、人間性に
密接に関わるようなことは
お金に換えられないのです。

アートとは、人間に
対する信頼であり、
愛情です。

今、あらゆる物事が経済中心に回っていて、
人間が自分たちのことだけを考え、
その結果、世界各地で自然破壊を起こし
残虐な殺戮を平気で行っている。
そういうことの根っこの要因になっている
経済第一という西洋文明的な発想の社会が
このまま突き進んでいくと
本当に地球は減んでしまう。



シャンボール城での展覧会 2019年10月～
2020年3月「ユートピア」 (フランス)

風や水で動く作品を作り、細密な仕掛けを考えながらポップアップ絵本を描き、舞台の方ではステージ作りから演出までを手がけてしまうアーティスト新宮晋（しんぐうすすむ） ご存じでしたか？ 兵庫県三田市に拠点を置く、国内よりも海外の方で有名かもしれない日本人アーティストです。作品は関西国際空港や東京銀座のメゾン・エルメスなど、多くの人が行き交う場所に設置されていて、皆さんも気づかないうちに目にしているかもしれません。

冒頭の発言は、ある取材の折にさりげなくアートについて語ってくれたものです。窓際に飾られた可愛いマケット（作品のミニチュア模型）たちが、心地よさそうに動くアトリエの中でさりげなく語られた言葉で、筆者には今でも印象に残っている“新宮語録”の一つです。

あるアーティストに興味をもち、そのアーティストのことをもっと知りたいと思ったとき、折々のインタビューでの発言を追っていくと、かなりの部分でその実像に近づくことができるものです。そこで「新宮晋」初心者の皆さんに、これまでの取材で得た発言をピックアップしてみました。

「ここを新しい文化の発信基地にしたい！」
アーティスト新宮晋のもう一つのライフワーク
“森のなかのパフォーマンス・アート”



新宮晋 風のミュージアム

Susumu Shingu WIND MUSEUM



「緑豊かで心地よい風の吹くところ」という創作の場としての必須条件を満たす三田の森の中に、自宅とアトリエ&ファクトリーを構える新宮晋。

その日常生活の散策エリア内にある兵庫県立有馬富士公園の一角に2014年6月「新宮晋風のミュージアム」は誕生した。風を受けて発電する「里山風車」と12点の作品が一堂に集められた野外ミュージアムである。

パブリックな公園の中で、アーティストの名前が冠せられた世界でも類を見ない野外ミュージアムで

あるが、ここでは新宮さんが当初から考えていた「ここを単なる自分だけの作品展示の場所に終わらせないで、演劇や音楽など多種多様な文化活動を表現できる本来の舞台空間にしたい」という思いから、自らが率先して自身企画・プロデュースによる薪能をはじめ、これまでもミュージカルや青空ジャズライブ、子どもたちと一緒に作る「元気のぼり」など

数々のパフォーマンス・アートを繰り広げている。

そして今回のパフォーマンスは、本格薪能に加え、新たな試みとして新宮晋の世界観が凝縮された最新プロジェクト『地球アトリエ』構想のキャラクター、サンダリーノと地元三田市の子どもたちによる創作狂言が演じられる。いつにも増して見逃せないパフォーマンスになりそうだ。

アートで世界をつなぐ“地球アトリエ”構想



モンゴルの大草原



北極圏の凍結湖



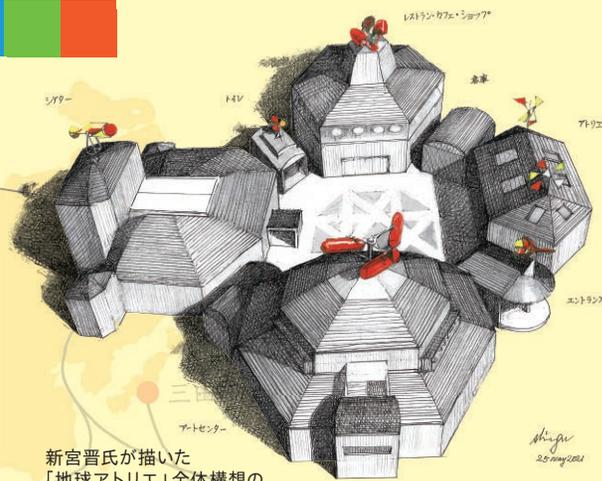
ブラジルの砂丘海岸



ニュージーランドの無人島



兵庫県三田の田んぼ



新宮晋氏が描いた「地球アトリエ」全体構想のイメージスケッチ

風や水でゆらめく作品をつくりはじめた時から、無意識だったかもしれないが新宮さんのアート活動はアートの枠組みを超えてしまっていて、年月を重ねていく毎に無限に広がっていくようだ。振り返ってみると、これまでに2度、地球規模のアートプロジェクトを企画し、実行してきた。

ひとつ目は風で動く彫刻10点を持って、50歳を目前に敢行した『ウインドサーカス』。美術館とか展示会場ではない日常生活空間で、美術なんかにとりたてて興味のない普通の人々が、自分の作品にぱったり出会ったらどんな反応をするのだろうか？ そんな素朴な疑問が湧き実行したと言う。お金も組織のサポートもなしに実行してしまう、そのエネルギー。普通の感覚しか持ち合わせていない筆者の想像など微塵も及ばないスゴイ人だ。

2度目は60歳になった頃、もっと地球のことを知

りたいと思いたち、風で動く帆のような彫刻21点をコンテナに詰め、世界各地の辺境を巡った『ウインドキャラバン』。文明社会の便利さにどっぷり浸かっている自分たちと違い、今も自然と深く関わりながら日常の生活をする先住民から、なにか未来の生き方のヒントが学べるのではないかと考え、これも実行した。2年間かけて作品21点の設置場所を実際に現地まで足を運び探した後、2000年に三田市の自身のアトリエ前にある田んぼからプロジェクトがスタートした。その後、ニュージーランドの無人島、北極圏の凍結湖、モロッコの岩山、モンゴルの大草原、ブラジルの海岸砂丘へと、よくもまあこんなとんでもないプロジェクトが実現したものです。それぞれの土地では1ヶ月ほど作品を展示し、その間さまざまな交流を重ね、さまざまな人々と愉快な時間を過ごしたという。言葉も通じないのに冗談を言い合い、

肩をたたきあって涙を流し笑いあった日々。人類は元々一つの家族だったことを思い知ったこの体験こそが、今から始まろうとする『地球アトリエ』プロジェクトの精神につながっている。

紙面の都合で『地球アトリエ』の詳細は次号に譲ることになりますが、読者の皆さんにもぜひ一緒になって参加してほしい、今この時代こそそのプロジェクトです。そして、そこにはイタリアンカラーのかわいいサンダリーノがプロジェクトの案内人としてわたしたちを迎えてくれます。

速報

そこに行けばいつも何かワクワクするようなことが起こっている。「地球アトリエ」はそんな場にしていきたい。そう語る新宮晋さんが主宰する

“地球アトリエ”のファンクラブがまもなく誕生します！



「私は今まで、少しでも多くの人に地球という星の貴重な自然の魅力を伝えたいとの思いから、風や水で動く彫刻や、絵本、舞台作品を発表してきました。そして今の私は、同じ思いを共有する方々と一緒に、これ以上自然を破壊することなく、世界中の多くの人々と一緒に、未来の生き方を楽しく考えられるアトリエヴィレッジを

作ろうと考えています。場所是有馬富士公園内が理想。全体のイメージは、人々が毎日行き交う広場を中心にサーカス小屋のような劇場や地産地消の展望カフェやレストラン、さらに制作工房やギャラリーなど、木造建屋が広場を取り囲みいつも緑のそよ風が流れている。そんな、ある種の“ユートピア”を作りたいと思っています」

この「地球アトリエ」ファンクラブは、まもなく詳細が発表されるようです。おそらく9/23のイベント当日の会場でもその内容が発表されるかもしれませんが、少しでも興味を持たれた読者の皆さんは、しばらくの間「地球アトリエ」のホームページを欠かさずチェックしてください。



サンダリーノ

Coming Soon (申請中)

LINE スタンプ登場！

地球アトリエのマスコット「サンダリーノ」がLINEスタンプに。まもなく、LINE STORE・スタンプショップで入手できるようになります。サンダリーノが、あなたのメッセージを楽しく伝えてくれます。



第四回 風の能

新作子ども狂言

「サンダリーノ — 水車小屋の場」

原作 新宮 晋
狂言監修 善竹 忠亮
脚本 上田 敦史

サンダリーノ 善竹 忠亮
ソラ・子ども達 三田少年少女合唱団

笛 赤井 要佑
小鼓 上田 敦史
大鼓 森山 泰幸
大鼓 上田 慎也



兵庫県三田市を拠点に国内外で活躍する風のアーティスト新宮晋が描く世界発売の絵本『サンダリーノ』。「生きとし生けるものは、色や形も大きさも、生き方だってみんな違う。だから、よけいに好きになれる」こう高らかに謳う新宮晋の絵本の世界を、能楽大倉流小鼓方、上田敦史さんが新作狂言に書き下ろしました！公演会場の地元三田市の子ども達が上田先生の指導のもと夏休みの間楽しい練習を重ね、狂言の謡(うたい)・能囃子を身につけて、晴れの舞台上立ちます。

空を眺めるのが大好きな、三田市に住む八歳の女の子「ソラ」。いつもぼんやりしているから周りからは「うわのソラ」とからかわれたりするけれど、いつか将来自分がスゴイことを実現することだけは分かっています。

ある嵐の夜、雷とともに空から地球に落ちて来たのは、大きな目と長い耳、そして、まるでイタリアンカラーのような色鮮やかな身体を持つ不思議な生き物でした。ソラにはこの子がどこか遠い星からやって来たのだと直感で分かります。でも、こんな不思議な生き物が大人たちに見つかっては大騒ぎになってしまいます。そこで今は使われていない村はずれにある古ぼけた水車小屋に隠してお話をすることに。

ソラはこの生き物の名前を三田にやって来たのだから「サンダリーノ」と名付け、すっかり仲良しに。二人はテレパシーで色んなお話をしたり、空を飛んだりして遊びます。そんなある夜、ソラの後を付けてきた仲間の子ども達が水車小屋のサンダリーノを見てびっくり仰天、そして大喜び。みんなでこの不思議な友だちを護っていくことになりました。

新能

「敦盛」

草刈男(前シテ) 吉井 基晴
平敦盛(後シテ) 上田 貴弘
草刈り男(ツレ) 笠田 祐樹
梅若 雄一郎
上田 顕崇

蓮生法師(ワキ) 福王 知登
里人(間狂言) 善竹 隆司

笛 赤井 啓三
小鼓 大倉 源次郎(人間国宝)
大鼓 大村 滋二
後見 大西 礼久
笠田 昭雄
藤谷 音彌

地謡 上田 拓司
梅若 猶義
梅若 基徳
上田 大介
井戸 良祐



今回の主人公、平家物語で語られる平敦盛(たいらのあつもり)は、一の谷合戦(いちのたのかっせん)当時、弱冠十六歳でした。この我が子ほどの年齢だった敦盛を手にかけてしまった源平の合戦で有名な熊谷直実(くまがいのなおさね)は、その後出家し、蓮生法師(れんしょうほうし)となって一谷にやってきました。そこで敦盛の菩提を弔っていると、草刈りの男たちが現れ、その中の一人が敦盛の霊であると蓮生に告げます。

能「敦盛」では人の世の無常が大きなテーマとなっていますが、その悲哀だけに終始するの

ではなく、敵同士だった二人が仏縁によって真の友となるという部分に焦点が当たっています。また、敦盛は笛の名手としても知られ、武士であるよりも芸術家としての人生を生きたいと願った平安の貴公子のような美少年であったとされています。舞台後半では、悲惨な戦の有様や修羅道の苦しみはもとより、戦場の真只中にありながらも、笛を奏で、今様を謡い、風雅に舞うという歌舞の演出に重きが置かれており、ここにこそ能らしい反戦への思いが感じられます。

屋外の演劇空間を楽しむ

水上ステージを囲むように古代ギリシャの円形劇場を彷彿とさせる石積みの野外桝敷。この野外桝敷をみるだけでも「風ミュ劇場」へ足を運ぶ価値アリ！感動と想い出が記憶に刻まれること請け負います。

石積みの野外桝敷を開演直前の舞台裏からこっそり拝見(2018年10月「風の音楽会」)

自然に囲まれた舞台空間は時間の経過とともに刻一刻と美しい変化を見せる(2019年5月「第3回 風の能」)

屋外空間ならではの「新宮流」大掛かりな演出も見逃さない(2016年5月「いちごエクスプレス」)

水上ステージは「新宮応援団」の手で完璧に仕上げられる

当日限定の作品解説付きチャーターバス

新宮作品を鑑賞してから舞台を楽しむ、これ正統派(?)の楽しみ方です。アーティストの人となりも熟知した「新宮応援団」のメンバーがスペシャルガイドを勤めます。名調子の作品解説は「風の能」ならではのアツな時間を楽しめます。当日限定30席のプレミアムバス、お乗り逃しなく！感動と想い出が記憶に刻まれること請け負います。(有料1,000円/1名)

水の木・星の立像 青野ダムサイド公園 1992年

星の対話 三田市役所前 風のひろば 2017年

大地の詩(けいこのうた) JR新三田駅前 1985年-1997年(駅前ロータリー改造のため改作)

「日本の心を、世界に」上田敦史さん 令和の能楽伝道師

第一回「風の能」から舞台を作り上げる中心的存在の上田さん。仕事上の正式の肩書きは能楽大倉流小鼓方。難しそうな世界でしょ。でも大丈夫。それを分かりやすく伝えてくれるのが上田さん。今回の「風の能」では、仲間の能楽師たちと一緒に子どもたちに自らお稽古をつけて共演します。

真夏のお稽古風景

能楽大倉流小鼓方で株式会社伝楽舎の代表取締役でもある上田敦史さん

2022年9月23日 [金・祝] 17時半 開演 (16時開場)
兵庫県立有馬富士公園 休養ゾーン「新宮晋 風のミュージアム」水上特設ステージ

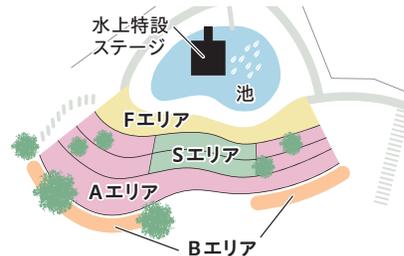
チケット絶賛 発売中!!

F エリア 5,000円 (税込) 大人1名+子ども(小・中学生)2名まで Fエリア内のシート席 (エリア内自由)
※入場時にレジャーシートをお渡しします。 ※未就学児童はご入場いただけません。

S エリア 5,000円 (税込) 1名 Sエリア内の椅子席 (エリア内自由)

A エリア 4,000円 (税込) 1名 Aエリア内の椅子席 (エリア内自由)

B エリア 1,000円 (税込) 1名 (高校生・大学生限定) Bエリア内の立見席 (エリア内自由)



チケット購入方法

1 オンラインで電子チケットを購入

- 電子チケット販売システム「teket(テケト)」のサイトから購入。
- 右のQRコードをお手持ちのスマートフォンカメラで読み込んでください。
- 「風の能」の案内サイトが立ち上がりますのでご希望されるチケットの種類、枚数を選択していただき、クレジットカードもしくはコンビニ決済でご購入ください。
- 購入後、お手元のスマートフォンにチケットの代わりとなる、お客様専用のQRコードが送られてきますので、当日の受付でそのQRコードを係の者にご提示ください。



2 電話によるお申込み

受付時間内にお電話でお申込みください。代表者のお名前、連絡先電話番号、ご住所、ご購入希望チケットの種類・枚数をお聞きます。

TEL.079-568-3764 一般財団法人 地球アトリエ
[電話受付] AM10:00~PM5:00 (月~金)

会場へのアクセス

○ JR・神戸電鉄をご利用の場合

公演当日は「JR 三田駅」北口から臨時送迎バスが運行されます。

「JR三田駅」北口発 → 会場行き バス運行時間

- 15:00発 ガイド付特別便 (有料/約1時間/定員30名まで)
三田駅から会場までのルート上に設置されている新宮晋作品を新宮応援団の副団長による名解説を聞きながら約1時間ゆったりと鑑賞できる当日限定の特別チャーター便
料金: 大人1名(高校生以上)1,000円(税込)
※上記QRコードよりご購入ください。中学生以下は無料ですが座席確保のため0円のチケットを忘れずにご購入ください。
- 15:45発 会場直行便(無料/約30分)
- 16:45発 会場直行便(無料/約30分)

○ お車をご利用の場合

- 中国自動車道「神戸三田」インターより約20分
- 舞鶴若狭自動車道「三田西」インターより約20分
- 新名神高速道「宝塚北SA」より約25分



主催者 インフォメーション ① 天候状況による実施判断は当日午前10時までに主催者公式サイト (https://susumushingu.com) 及び今回のチケット案内購入サイト (https://teket.jp/3972/13760) にてお知らせします。② 悪天候等により屋外での実施が困難な場合は「新宮晋 風のミュージアム」に隣接する有馬富士共生センター内で実施します。但し、屋内会場の座席数に限りがあるためS席チケットをお持ちの方のみの公演となります。S席以外のチケットは後日払い戻しさせていただきます。悪しからずご了承ください。



地球アトリエ通信 ~風のアーティスト 新宮晋からのメッセージ~
ATELIER EARTH Journal プレ創刊号 vol.0 autumn/winter 2022

2022年9月1日発行
発行元: 一般財団法人 地球アトリエ

編集責任: 前波豊 (株式会社ヘミングウェイ)
取材・編集: Team HEMINGWAY

AD & デザイン: 尾川誠 (有限会社フロッグ)
印刷: アート印刷株式会社